

中部版

地域の催しは静岡支局へ

静岡市

鯨ヶ池周辺地区整備

民活導入の可能性探る

静岡市は、鯨ヶ池周辺地区整備で2022年度に、Park PFIなど民間活力導入の可能性を探る。現在市内部で策定作業を進めている基本計画を22年度中に取りまとめる意向であり、この中で方向性を示す。また、22年度は現況測量を実施する。



事業は、葵区下の鯨ヶ池(うち約5分は池・周囲)を囲むように整備する。池の周辺地区約6・5分、1・4分については、を検討している。市民は民間活力導入も視野に入れている。企業へのヒアリングを通じて市場ニーズの調査も進めており、コロナ禍での調査でも好感度を確かめた。22年度は、基本構想段階での整備イメージをPark PFI

F1などの手法の検討も含めて費用対効果の数値化に努める。ヒアリング企業は、カフェなどの飲食店やキャンプ運営会社など複数社を対象とした。また21年度は、20年度に策定した基本構想に基づきワークショップ形式で地元住民との調整を進めており、年明けに3回目を開催する。22年度は、住民側の意向を反映させながら基本計画をまとめるが、民間活力導入となれば、地元が施設にどう関わるのかがポイントとなりそうだ。

玉野総合コンサルタント静岡支店(静岡市葵区)に委託してまとめた基本構想では、拠点整備の基本方針を①地域・世代を越えた「様々な人が集う」拠点の体験を重ねる「文化と歴史とふれあう」拠点②多彩な出会いを発見する「新たな魅力を創造する」拠点として、大きく分けて北側から、ゲートエリア、レイクエリア、ガーデンエリアの三つにゾーニング。ゲートエリアには、6・5分とは別に、今後設置位置などを模索する駐車場などの整備も予定している。詳細は今後検討していくことになるが、レイクエリアは主に池のエリアで釣りやボート、水鳥観察などの親水空間としての機能を配する。ガーデンエリアは複数の地域と協働で緑化、景観づくりを進める方向だ。

静岡市建設局 公共ブロードバンド活用 防災力強化へ実験

静岡市は16、17日の両日、公共ブロードバンドを活用した建設局防災力強化実験を行った。有事の際の無線システムで、鮮明な映像の通信が可能となる。同実験は静岡市に次いで全国でも2例目。市では、実験結果に基づき2022年度も導入可能性調査を行った上

で、有効性が確認できれば23年度以降早期の導入を目指す予定だ。地上デジタル放送のデジタル化に伴って、かつてのアナログテレビの周波数は未利用の空き周波数となっている。総務省でできる技術が開発されたため、静岡市が災害時の連絡用ツールとして着目した。災害時には、



通常の通信手段は回線がパンク状態や使用不可となる可能性も考えられるため、市では現在、携帯デジタル防災無線や衛星携帯などを備えている。しかし、4Kの高精細画像が共有できるようにすれば、被災地などの映像を本部で受信、被災者救助の初動体制強化として病院などにつなげる、相互に映像を見ながら緊急会議を開催できるなど、メリットは計り知れない。建設局では、公共ブ

都高速道路などに回線を割り当てており、今後は自治体など公共性の高い機関の利用へと広がっていく。

このための整備と合わせて、池の水質浄化や、周囲の市道整備なども検討していく。

中部農林 新丹谷用水地区 舗装復旧を計画



静岡県中部農林事務所 備として新丹谷用水地区は、経営体樹園地再編整一で舗装復旧を計画している。同事業は樹園地再編に向けパイプラインやポンプ場を整備するもの。整備により、道の舗装を復旧する。施工延長は2740m。工事規

1月17日から受付 藤枝市/業務の入札参加申請 藤枝市は、2022年度建設関連業務委託(コンサルタン)に係る入札参加資格の審査申請(定期)を22年1月17日から受け付ける。受付期間は、提出先「総務部契約課」に提出する。提出方法は、提出先などとは次の通り。提出方法「市内・市外業者は持参または郵便、市外業者は郵送のみ」

治山ダム整備へ 測量設計着手



静岡県中部農林事務所は、県単治山(治山調査)として静岡市葵区平山(小天王)地内の測量設計に着手した。奥平測量設計事務所(藤枝市)が2022年3月22日納期で進めている。業務は、溪間測量として踏査選定、簡易中心線測量、簡易断面測量(いずれも延長400m)を実施する他、治山ダム1基の設計を行う。治山ダムの規模は設計の中で決める予定だ。工事の実施時期は未定。

あさはた遊水地 地域交流イベント



小林土木緑化(静岡市駿河区、小林健志社長)は、静岡市駿河区のあさはた緑地交流広場のあさはた池で地域住民や地域の子どもたちとのふれあいイベントを開催した。地域住民や静岡県立静岡北特別支援学校の生徒ら約50人が参加した。イベントは、「あさはた緑地の池の水全部抜いた」をテーマに、池に生息するコイやライギョ、メダカなどを捕獲。参加者らに生息環境や生物の特長などを説明した。参加した子どもたちは、大きな魚やカエルなどに興奮した様子だった。

地域貢献 新社屋にラッピング



橋本組(焼津市、橋本真典社長)は、地域貢献の一環として、建築を進める同社新社屋の養生ネットにリボンのラッピングデザインを施した。写真。クリスマスシーズンに街のにぎわいづくりに貢献するため、新社屋をキルトボックスに見立て、隣接するターゲットクル子ども館や駅前通り商店街のイルミネーションともコラボレーションできるような企画として実施した。ラッピングは新社屋の施工状況にもよるが、2月中旬まで見ることができると見込んでいる。

県外の需要加味 建設機械を増強



前田重工業(静岡市葵区、前田茂社長)は、県央部地区の大規模タウンの造成工事に参加。県外からの大規模な造成工事の依頼もあり、大型ショベル日立ZX890などの建設機械の増強を図った。同社はICT建設機なども含め多数の建設機械を所有しているが、前田社長は「県外の現場の依頼も増えてきており、要請にはしっかりと応えたい」と、さらなる強化に踏み切った。

2現場で安パト



清水港湾建設工事安全協議会(清水港湾建設工事安全協議会)は、静岡市清水区の2現場で安全パトロールを行った。写真。会員企業の他、国土交通省清水港湾建設事務所、静岡県清水港管理庁、静岡労働基準監督署、清水海1Bブロック掘削工事、東亜・大木特定建設工事共同企業体施工の清水港日の出壁(12月)改良工事(その2)の2現場を点検した。現場事務所での書類点検の他、各作業をチェックリストに基づき細部にわたり点検。点検後に講評・反省会を実施した。上保安部から計40人が参加。鈴与建設が施工する清水港改修工事(物揚場1Bブロック掘削工事)共同企業体施工の清水港日の出壁(12月)改良工事(その2)の2現場を点検した。